

引渡。篠嶋左兵衛小者之由。追而御内々を以、右番人兩人に鳥目一貫文宛被下。とあり。右之如く畑番人兩人居たる處、天保年中畑地用事無之由に而被廢止。依之右畑番人は、會所奉行より先規之趣言上いたし、割場付小者に被抱たりとぞ。

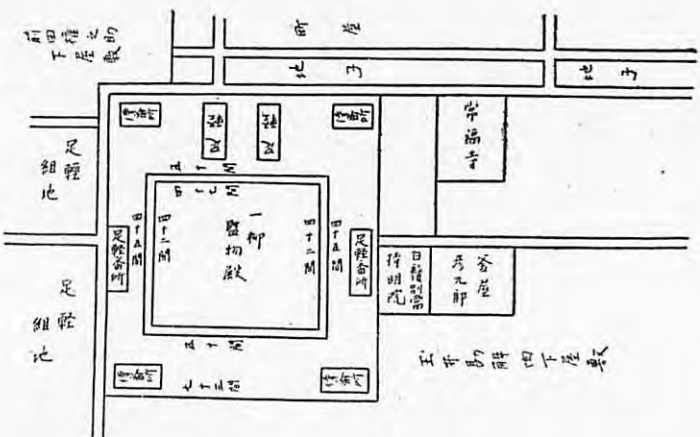
○一柳監物居館跡

延寶の金澤圖に下の如く載之。金澤町會所留記に載せたる、天和元年六月幕府回國巡見使金澤來着に付町奉行へ尋問之趣言上書左の如し。

回國上使大關勘右衛門殿・内藤十之丞殿・中根

左兵衛殿、私共へ御尋之儀御請申上候覺

一、一柳監物殿は無事に候哉、屋敷は何方にて、屋敷構は何程にて候哉と御尋に付、宮腰へ御越被成候道筋廣岡与申所之近所、屋敷は百間四方にて、四方に堀を掘、二重堀内には忍返しを付、門之縮も嚴重に御座候由申上候。番人ノ様子も御尋に付、委細申上候。刀・脇刺は御刺候哉、但し無刀にて候哉と御尋に付、先年御預之刻、從公儀御指圖にて、大小共に相渡り候由申上候。私共儀折々懸御目候哉与



御尋に付、毎月罷越懸御目候由申上候へば、御眼病之儀并家來人數、侍之分之者共交名御尋に付、委細申上候。當地にて御合力は何程にて候哉と御尋に付、從公儀御指圖にて、百人扶持被遣由申上候事。

辛酉六月十六日

岡田 十右衛門
里見 七左衛門

本多安房殿

奥村壹岐殿

奥村伊豫殿

前田對馬殿

一柳監物殿御口上之覺

私作事之儀申上候處、願之通被仰付、忝奉存候。被付置御奉行・大工等、何も情を出し、存之外結構に出來仕、重疊忝奉存候。以御序宜被仰上可被下候様に、可申達之由に御座候。以上。

十二月十六日

里見 七左衛門
岡田 十右衛門

本多安房殿

横山左衛門殿
奥村因幡殿
前田對馬殿
右延寶五年也。

一柳監物殿御好之覺

一、雪垣被仰付可被下由之事。

一、障子・連子張直申度由之事。

一、臺所に而遣申薪代銀五百目分調申度由之事。

一、門建直、二重堀内之分、來る十日より被仰付不殘取、屋敷之前後に土取申跡堀に成有之候間、今度土堀こぼし候上に而、埋申度由之事。

一、樹木昌之儀も、來る十日より垣仕候様に被仰付可被下由之事。

右之通御願御座候。如何可仕候哉奉伺候。以上。

九月七日

里見 七左衛門
岡田 十右衛門
加須屋傳藏
井上久太郎